

ビッグ・サイクル：歴史の転換点

秩序の崩壊と再構築のメカニズム



現在の地政学的・社会的混乱を、80年周期の歴史的枠組み（ビッグ・サイクル）を通して解読する。

Ray Dalioの分析に基づく



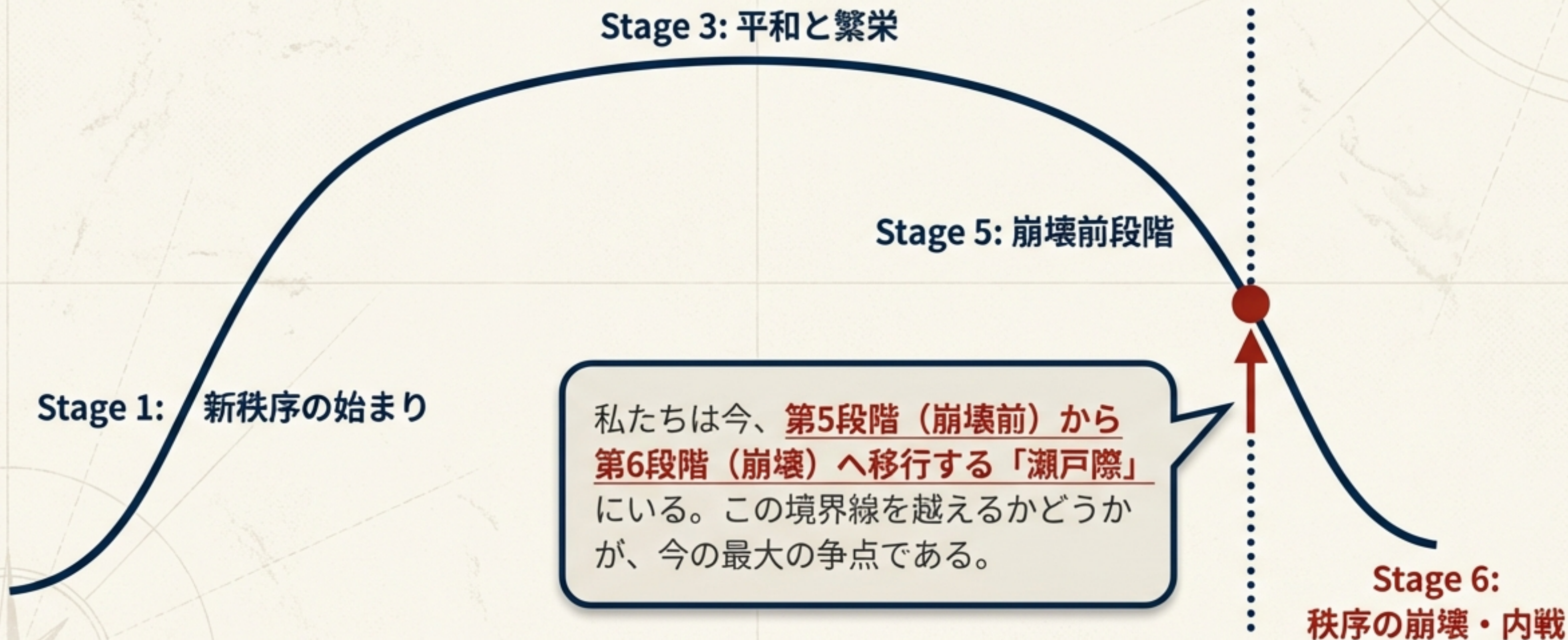
「この映画は、過去に
何度も見たことがある」

「今起きていることは、同じ理由で繰り返し起きてきたことだ。
原因と結果の関係を理解することは、未来を予測する上で極めて重要である。」

ビッグ・サイクル (The Big Cycle)

- 約80年（人の一生の長さ）続く、秩序の興亡のサイクル。
- 前回この秩序が崩壊したのは1930年～1945年。
- 我々は今、戦後の秩序が崩れ去る瞬間を目撃している。

原型的なビッグ・サイクル (The Archetypal Big Cycle)



ビッグ・サイクル (The Big Cycle)

第5段階の正体：有害なミックス

1. 悪い財務状況

巨額の負債、
紙幣の乱発

2. 大きな格差

所得、富、
価値観の断絶

3. 深刻なショック

経済危機、パンデミック、
戦争

内部紛争 / 内戦

この3要素が重なるとき、典型的な「内部紛争」や「内戦」が引き起こされる。平均的な豊かさは重要ではない。重要なのは、苦しんでいる人々の割合とその勢力である。

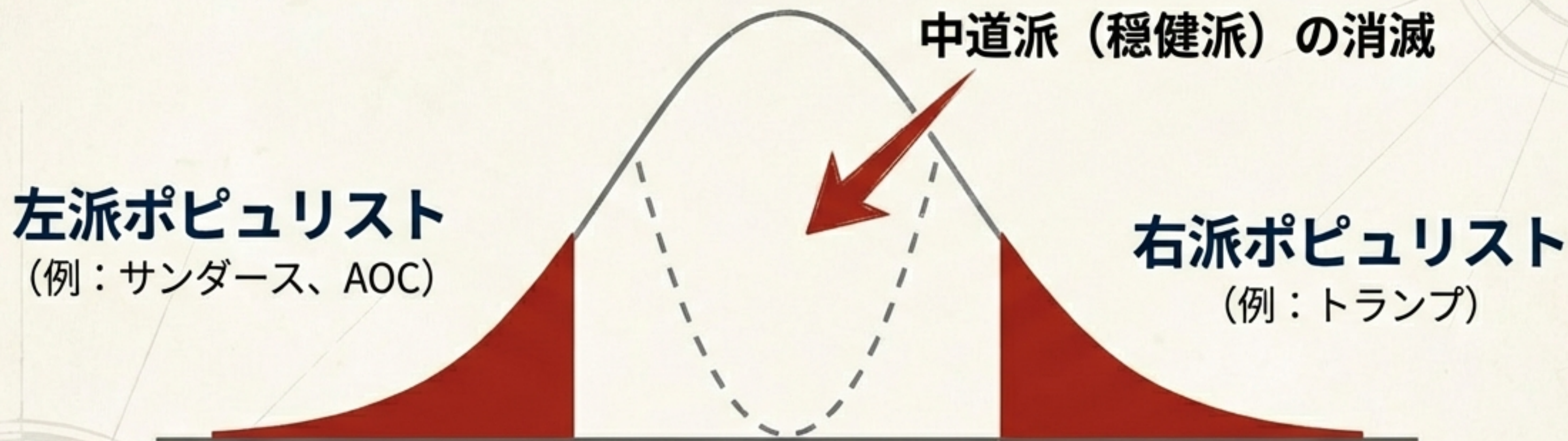
マーカー1：財政の罫と富の流出



CURRENT REALITY

米国では、最も豊かな州（NY、CAなど）が最大の格差と負債を抱えており、富裕層の流出が始まっている。

マーカー2：ポピュリズムと「中道」の消滅



ポピュリスト (Populist)：エリートに反抗し、「一般大衆」のために戦うと主張する強力なリーダー。妥協よりも対決を好む。

第5段階では**穏健派が少数派**となり、第6段階では**消滅**する。
分断が進むほど、**内戦への距離は縮まる**。

マーカー3：真実の喪失と悪魔化



A. メディアの武器化

メディアは情報を伝える手段ではなく、相手を破壊するための武器となる。裁判を経ずに、メディア上で個人が裁かれ、社会的に抹殺される。



B. 他者の「悪魔化」

問題の原因を特定のクラス（金持ち、移民、特定の人種）に押し付ける。これは歴史的に、虐殺や排除（第6段階）への前兆である。

マーカー4：ルール崩壊と実力行使



人々が「システム（法）」よりも「大義（コーズ）」を優先するとき、「どんな手を使っても勝つ（Winning at all costs）」ことが規範となる。

⚠ 警告サイン（Warning Signs）

- ！ 警察・司法制度の政治利用
- ！ 私設警察や民兵組織（paramilitary groups）の出現
- ！ これらは第5段階末期の典型的な兆候である。

引火点：ミネアポリスの衝撃



- **事象：**トランプ政権のICE（移民関税執行局）イニシアチブに反対する抗議者が殺害された事件。
- **分析：**これは単なる事件ではなく、第5段階から第6段階へ移行する「トリガー」となり得る。
- **死者が出る意味：**紛争において死者が出ることは、次の暴力的なステージ（内戦）への進行を決定づける決定的マーカーである。
- **連邦制の危機：**中央政府と州政府の対立が表面化している。

暴力のデータ化：内戦への数値的根拠

30%

国を軌道修正するためには「暴力もやむを得ない」と考えるアメリカ人の割合。(PBS News/NPR/Marist)

85%

政治的暴力が増加していると認識している成人の割合。
(Pew Research)

10倍

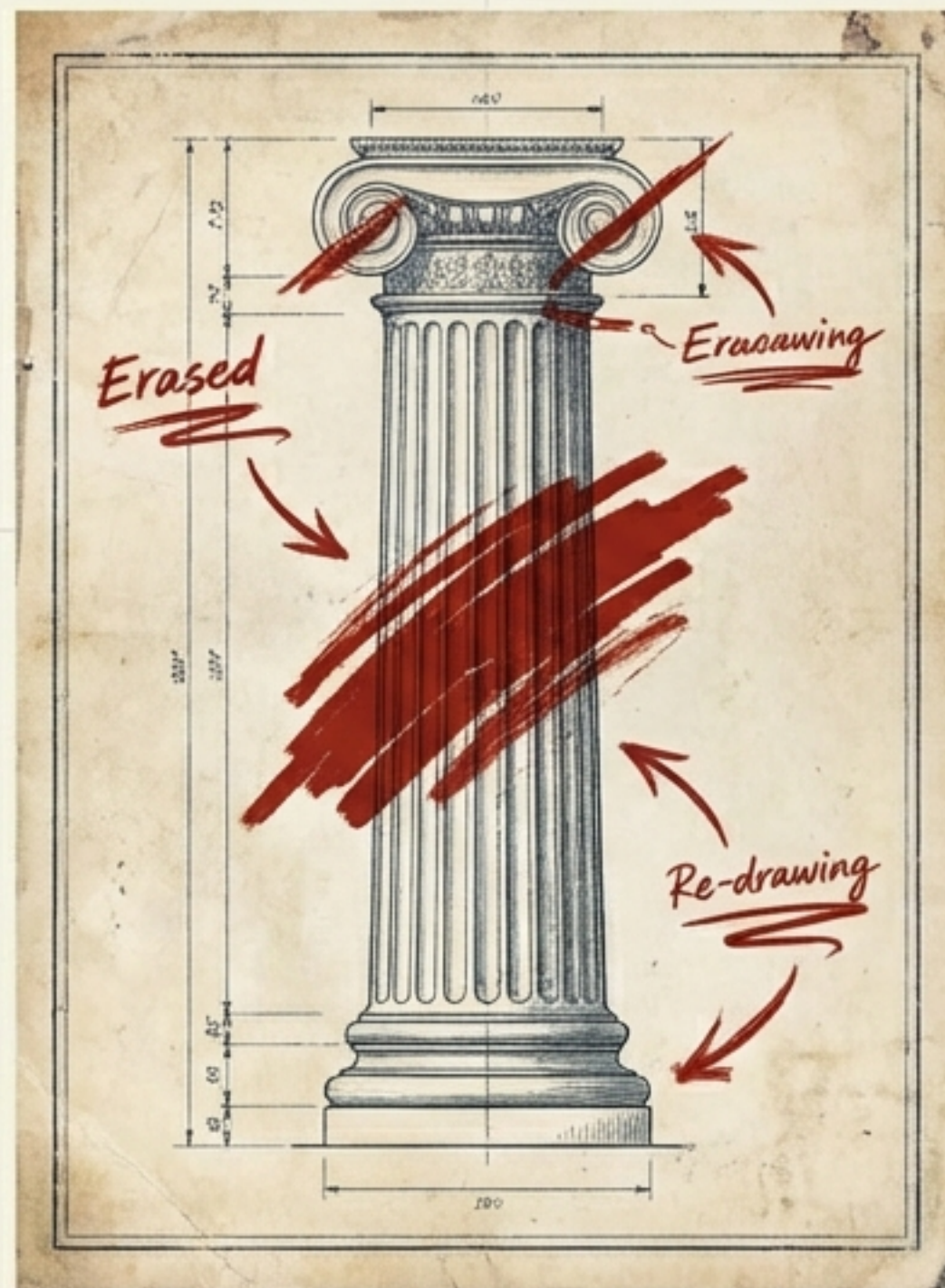
政治的動機による攻撃・陰謀の増加率
(2016-2024)。
(CSIS)

米国は今、「火薬庫 (Tinderbox)」の状態にある。
銃の数は人口よりも多い。

第6段階とは何か：秩序の完全な書き換え

内戦（Civil War）は単なる暴動ではない。それは**富と政治権力の「完全な再構築」**である。

既存のシステム内では解決できない問題を、**システムを破壊**することで解決しようとする試み。



- **非常に残酷で暴力的になる**（穏健派は排除される）。
- **勝者と敗者が明確になるまで戦いは続く。**
- 歴史上、多くのシステムはこのプロセスを経て入れ替わってきた。

歴史的先例：破壊と再生のパターン

Case 1: ロシア革命 (1917)



システムを完全に破壊し、共産主義という新秩序を構築。74年間続いた。

Case 2: 明治維新 (1868)



外部からの圧力（黒船）と内部の格差がトリガー。古い身分制度を打破し、教育と資本主義を取り入れ、劇的な繁栄をもたらした。

👉 内戦や革命は、適切に行われれば将来の改善の基礎となるが、その過程は地獄のような苦しみを伴う。👈

運命の分岐点：二つの道とリーダーシップ



Path A: 強い闘士 (The Strong Fighter)

国を内戦と革命の地獄へと導く。片方のサイドを制圧し、力で解決する。



Path B: 慈悲深い専制君主 (The Benevolent Despot)

人々を二極化させるのではなく、団結させる。パイを争うのではなく、大きく育てて分配する「賢明な協力」。

歴史上、平和的な道（Path B）は実現が難しく、稀である。

結論：進化に適応せよ



永遠なのは「進化」だけである。

現在地を知る

自分がサイクルのどの段階にいるかを知ること、身を守り、対処することができる。

最良の解決策

富と権力を巡って争う（内戦）よりも、生産的なWin-Winの関係を築くことの方が、はるかに報われる。

適応か、死か

システムが適応できなければ、その社会は死ぬ。我々は今、その適応力を試されている。